

かもえない

神恵内

村民主体・村民本位

～みんなが主役の村づくり～



筆に託す想い、そのままのまま...

11月9日、神恵内村(川白)出身の書家 若山象風さんが、村民を対象に「書のライブ」を、小中学生を対象に「書に親しむ集い」を開催しました。

詳細は9頁「新元気の源」のコーナーで

12

2007年
平成19年

No.521

交通事故死ゼロ
(11月30日現在)

2,807日



新元気の源



神恵内村川白出身の書家、若山象風（しょうふう）さん。札幌在住が11月9日に神恵内村を訪れ、依頼者の注文に応じ、その場で色紙や衣類などに筆字を書く「書のライブ」を故郷で初めて開催しました。



どきどきどき、わくわく 若山象風さん「書」のライブ



若山さんは会社員を

経て1985年、札幌市円山に書道教室を開講。翌年には商用毛筆を始め、今では清酒ラベルのほか、さまざまな商品パッケージのロゴ（意匠文字）、有名飲食店の看板や暖簾など数多くの作品を手掛けており、道内外を舞台上に活躍されています。

そんなかたわらで若山さんは、「伝統や格式から書道は閉鎖的で高尚なイメージが先行し、人を遠ざけてしまっている」と感じ、「書をもっと多くの人に身近に感じてほしい」と5年前から「書のライブ」を始め、敷居の高い



▲長谷山スミさんは、「最近体調が優れないので元気になりたい」との願いを込めて、「気」という字を書いてもらいました。活力あふれる筆遣いに「元気をもらいました」と喜んでいました。

書道の間口を広げようと声がかれば筆を携え、規模の大小を問わずに各地を巡ってライブを行っています。

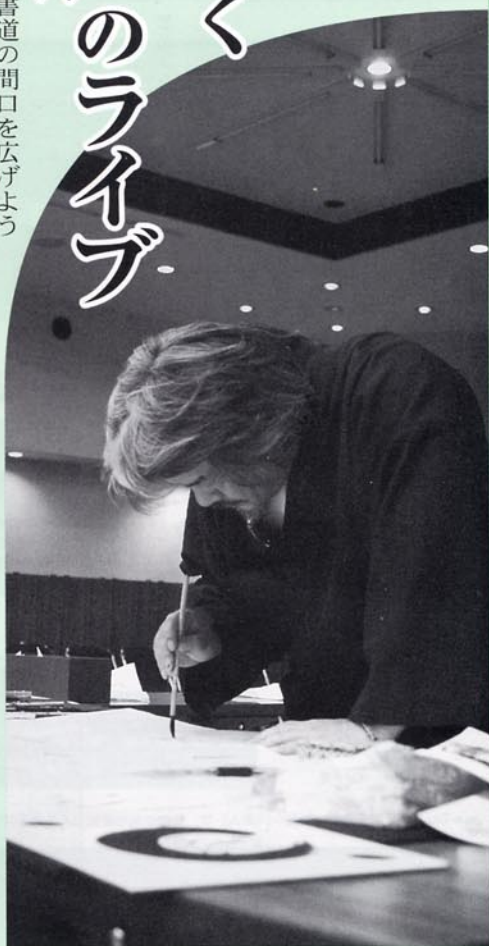
ライブ会場の漁村センターには、2時間余りで約50人の村民が訪れ、若山さんは、依頼者から「夢」「気」「心」などの好きな言葉や家族の名前など思いの文字を依頼されると、相手の片手を握って文字に込められた思いや気を感じ取り、色紙やTシャツ、ジーンズなどに力強く、時にはしなやかに筆を走らせていました。また、会場内の大型スクリーンには若山さんの筆の運びが映像で映し出され、順番を待つ人たちを飽きさせない臨場感あふれる演出も行っていました。参加者は出来上がりを待つ間、注文した文字がどんなふうになるのか、緊張と期待が交錯している様子で、やがて完成した作品を手渡されると、プロが目の前で書いてくれた世界に二つとない作品を手にし、喜びをあらわにしています。

若山さんは今回のライブを「チャリティーライブ」として募金箱を設置し、

集まった収益金は「子どもたちの教育のために」と全額を寄付していただきました。

この日、若山さんはライブに先立ち「書を親しむ集い」も小・中学生を対象にそれぞれ開催し、「書道では、この書かなければ」という決まりはありません。半紙をはみ出してもかまわない。頭をやらわらかくして、文字に託した思いや言葉の持つイメージを自分なりに表現できればいい」と書道の魅力をやさしく伝えていました。

最後に、「若山さんにとって、ふるさと」とは？とたずねると、「たまたま帰郷したとき、例えば夕陽が沈むのを見て、きれいだな」と素直に思える心がなくなってしまうたら、字は書けなくなると思っています。書くことが習慣になり、仕事になると、日常の何気ない場面でも感性や想像力が高まる。これは中学まで過ごした神恵内の自然や風土から培ったもので、そういう意味でふるさととは、「原点」に返れる場所」と話していました。



人のうごき

前月比/前年比

世帯数	5 2 1世帯	(± 0)	(- 4)
人口	1, 0 9 5人	(- 2)	(-22)
男	5 0 7人	(- 1)	(- 7)
女	5 8 8人	(- 1)	(-15)

【平成19年10月31日現在】

ごめいふくをお祈りします

神恵内 石崎 美和 さん (95歳)
11月8日死去

川 白 三澤 みよ さん (87歳)
11月28日死去

善意に感謝します

石崎 義則 さんより
母(美和)が生前お世話になったお礼として
村へ..... 1 0 万円
社会福祉協議会へ..... 5 万円
神恵内シルバークラブへ... 3 万円

高山 庸一 さんより
村の振興のために役立ててください。
村へ..... 5 0 万円

札幌市 若山象風さんより

文化振興のためにと額装作品を寄贈いただきました。
作品は庁舎村長室入口に設置しました。

HAPPY BIRTHDAY

今日1歳になります

おにいちゃん
おねえちゃん
ただごとらっしゅ

神恵内8班 山田 柚奈 ちゃん
平成18年12月2日生まれ

みなさんの力で減量成功!

10月のごみの量 64%も減量

平成18年10月 65.04ト
平成19年10月 23.27ト

10月から家庭ごみの有料化が始まり、資源物の分別収集によって、ごみの排出量が大幅に減少しました。
今後もみなさまのご協力をお願いします。

◀神恵内村の各年10月のごみ排出量 (岩内地方衛生組合じん芥処理場調べ)

私が若山象風さんの「書のライブ」で書いていただいたのは、家族の名前。中央に朱墨で書き込まれた細長い「絆」という文字が家族3人の心を糸でつなぐ針のようで、細いけれど芯が太くて折れない、そんな思いが込められているような気がして、今まで意識が薄れていた「家族の絆」というものを見つめ直すきっかけになりました。

ところで、若山さんの記事の中で「書道家」ではなく「書家」と書いてあるのに気付かれましたか？

国内には無数の書道流派や団体があり、書道家は名のある流派に入門して展覧会などに出演しながら次第に認められ、指導者的な立場になっていくのが一般的です。でも、若山さんは小学5年のときに学校ぐるみで始めた書道の通信教育で書道と出会って以来、特定の師についたこともなければ、書道団体にも属さず、我流で「書」を追求。当然、だれもがほしい専門家の評価や賞にも無縁で、それでいながらここまで上り詰めてきたのです。だれかのあとを追いかけてきたわけでもない。「道」は自分の「やるもの」。だから「書道家」から、「道」を外して「書家」と名乗っているのです。

最後に、書のライブで特に印象に残ったことがひとつ。ある村民の方が病気療養中の家族の回復を願って書を託したところ、若山さんが「気が足りないので」と私たち数人も協力することになりました。手を重ね合わせ、最後に若山さんの手が私の手の甲に触れるか触れないかの瞬間、私の手の甲はお湯をかけられたように熱い空気に包まれたのを覚えています。つまり、ハンドパワーです。心を込めた思いは必ず相手に届き、思いがひとつになれば必ず願いはかなうことを信じてやみません。



発行・編集/神恵内村総務課広報統計係 ■印刷/宛葉自印刷
〒045-0301 北海道古宇郡神恵内村大字神恵内村81番地4
☎0135-76-5011 FAX 0135-76-5544
ホームページ http://www.vill.kamoenai.hokkaido.jp
携帯サイト http://www.vill.kamoenai.hokkaido.jp/keikai
村長直通メール c:kamoenai@vill.kamoenai.hokkaido.jp